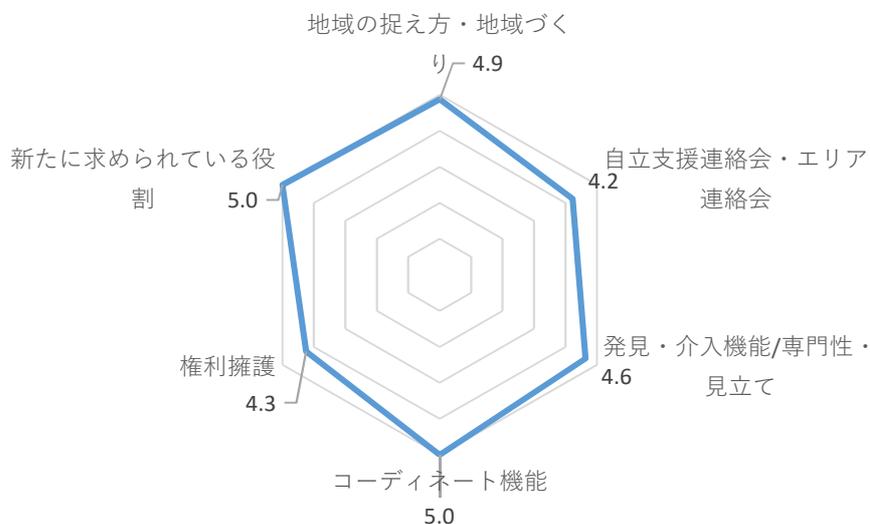


令和7年度委託相談評価 中センター

自己評価レーダーチャート



1. 総評

今年度は、民生委員児童委員協議会や包括主催の会議への継続参加、出前講座の実施を通じて「地域との顔の見える関係」を構築した。これにより、専門的な相談窓口としての機能が定着し、エリア連絡会等を通じた地域課題の抽出や事業所間の機能理解が深まった。また、多機関の視点を生かし、個別性に配慮した客観的な支援を組織的に実践することで、地域生活を支える基盤を強化した。

2. 強み、求められる機能

関係機関との強固なネットワークと相談しやすい体制が整っており、個別ケースから地域課題を抽出・検討する仕組みが機能している点が最大の強みである。特に、障がいの広範な課題に対し「取り残しを少なくしよう」とする真摯な支援姿勢は、関係機関から高く評価されている。また、副担当制の導入や、グループホーム増加等の近年の傾向に則した学習会の開催など、変化する地域ニーズに合わせた柔軟な専門的機能を発揮している。

3. 今後の取り組みへの期待

今後は、アンケートやヒアリング結果の視覚化・数値化による客観的な評価手法の検討や、ICT環境の整備・広報の工夫を通じた事業所間の意識の差の解消、さらには民生委員児童委員協議会や地区社協との連携強化を図るとともに、「8050問題」等の複合的課題や困難ケースに対して医療従事者とのさらなる見立ての共有や多機関を巻き込んだ介入を推進することで、地域全体を支える「領域を横断した切れ目のない支援体制」を確立していくことが期待される。